

第 21 回山梨県介護老人保健施設大会抄録用紙

演 題	利用者に合わせた働き方改革
副 題	ヒヤリハットの分析から考えた事

フリガナ	ツルシリツカイゴロウジンホケンシセツツル
施 設 名	都留市立介護老人保健施設つる
フリガナ	タカハシ チヅル
発表者(職名・氏名)	高橋 ちづる
フリガナ	アンゼンイインカイ
共同研究者	安全委員会

<はじめに>

当施設では安全管理委員会でヒヤリハットと事故報告書の集計・分析を行っている。出された報告書から職員の意識づけを行う為、毎月のフロアー会で情報共有だけで終わることなく最近の傾向や対策の再確認を行っている。

今回利用者の尊厳を尊重し、安全に生活してもらう事を考え職員の働き方を利用者の動きに合わせた働き方にする改革を行ったのでここに報告する。

<目的>

当施設では利用者が安全安楽に生活出来るよう利用者の生活動作に合わせた働き方を目指していく

<方法>

①平成 28・29 年度の時間帯別ヒヤリハットの件数に着目し傾向を分析する

②安全委員会、リーダー会、フロアー会、看護会での上記を踏まえた現在の勤務体制の見直しを行う

<経過・結果>

ヒヤリハットの提出件数は 28 年度 304 件

29 年度 324 件とわずかに増加していた。

発生場所は居室で大半を占め 28 年度 151 件

29 年度 149 件であった。

発生時間帯では 9～11 時と 15～16 時、18～19 時に多く発生していた。それぞれ利用者が動き出す時間に転倒、転落が多く発生していた為見守りを強化していた。

9～11 時の時間帯は食後の居室でのオムツ交換、シーツ交換、入所の対応、処置、入浴の為の移動介助と、職員の業務が多様である。ホールで必ず見守りを行う職員も Call 対応に向かう事があり、やむを得ず職員がホールから離れる事もあった。少ない人数で見守りを強化するあまり知らず知らずのうちに、強い口調で言葉をかけている事に気が付いた。利用者の生活に合わせ自立を促せるように対応したいと考えた。遅番業務の時間を 11 時から 10 時 15 分開始と変更し、ホールの見守りを増員して call 対応はしないホール見守り専門の職員として対応したこの時間帯にトイレでのヒヤリハットが多く、事故報告書も出ている事からトイレでの対応マニュアルを改訂した。利用者の認知度や ADL を分析し、

トイレ誘導時その場を離れてはいけない人には「離れない」や介助の必要な人は「二人介助」の注意書きをトイレの名札に記載し、誰が介助しても同じ対応が出来る様に工夫した。

15 時～16 時の時間はホールでの発生件数が多くみられた。おやつ後のトイレ誘導等職員が仕事をこなす業務に集中し、利用者の行動の見守りがおろそかになっていると分析した。その為休憩時間の変更や看護師もホールに出て対応するように変更した。

18 時～19 時は居室での発生件数が半分以上であった。食後にベッドに寝かせても眠れず起きて動き出してしまう。入所間もない利用者について特に注意して対応した。個々の生活パターンを職員同士で共有しすぐに寝かせていい方、少し時間をおいてから寝る方など細かく分析して対応するようにした。

<考察>

ヒヤリハットを多く提出することで重大な事故を防ぐことに繋がる。ただし事前に利用者の情報をきちんと意識的に把握していないと、ただ見守りを増やしても事故を防ぐことはできないと考える。今では職員がホールなどで利用者も多く関わりを持ち、利用者の特徴や行動パターンも理解され専門職としての対応が出来きている。以前は同一者で何枚も出されることがあったヒヤリハットも大幅に減少した。それは多職種との入所 1 週間カンファレンスや継続カンファレンスの充実により減少したのではないかと考えられる。今年は前期半年のホールでのヒヤリハットの提出事例が大幅に減少し、トイレや居室での発生事例も減少している。

<まとめ>

今回、ヒヤリハットの分析を行い、働き方改革を実施した。それにより見守りの強化が可能となり事故の減少へとつながっている。人員配置の変更等で時間にゆとりが出来た事は、心の余裕も作りゆとりを持った介護が行え、利用者の安心安全につながった。ゆとりを持ち楽しく働くことは介護職のネガティブな 3K をポジティブな 3K (きれい・かっこいい・希望がある) へと変える事が出来るのではないかとと思われる。それを目指し、今後も継続して安全委員会でき取り組んでいきたい。